

令和 6 年度(2024 年度)

八王子市立中野北小学校 学校経営報告

八王子市立中野北小学校 校長 佐藤 洋

令和 6 年度(2024 年度)の重点項目の取組報告

(1) 自己肯定感・人権意識を基盤とした他者理解の指導を推進し、温かい人間関係をつくれる豊かな心を育む

- ・今年度も「認め合う」「高め合う」上で縦割り班活動を中心とした異年齢集団活動が大変効果的でした。上級生・下級生が共に活動し合う中で、互いに影響し合って暖かい人間関係を構築できている様子が各所で見られました。自己有用感や自己肯定感が育まれる場でもありました。反面、同学年の中で、自己中心的な思いを抑えられず、トラブルに発展してしまう様子が今までより多く見られました。自己本位の思いの言動が、周りの人を傷つけ、最終的に自分も嫌な思いをすることになることを理解し、実際の学校生活の中でどんな言動をとるべきか考え、実践できるようになることが、必要です。
 - ・道徳教育では、他者の気持ちを自分のこととして考える活動を中心に授業を行ってきました。授業は意図通りに行うことができました。授業を意図的に実践の場との結びつくように図ってもしました。少しずつ実践の場で、道徳の時間に学んだことが、生活の中で表出されるようになってきていますが、教員の目がない場面で自己本位の言動をとる児童が多くなってきています。来年度の課題でもあります。
 - ・本を読む活動や図書整備は良好に実施されましたが、PC の活用の便が良く、図書による調べ活動は不十分でした。読み物については低学年での活用が活発でした。
 - ・不登校傾向児童は 20 名弱程度です。スクールカウンセラーや巡回心理士の協力を得ながら、学校組織で対応を検討しています。全ケースでの早期解決は難しいですが、保護者や関係機関とも連携し、様々な要因に対し、個に応じた対応を今後も継続します。
 - ・インクルーシブ教育が定着し、通常級と特別支援級の交流学习が推進され、個人差はあるものの双方の児童が自然に共に活動しています。特別支援級が本来の役割を担いつつ、固定化した人間関係の枠を超えた交流を行っていることが、当たり前の姿になっています。
 - ・特別支援学級では、毎日一人ひとりのケース会議を行い、授業を進めています。個々の実態に合わせた授業を今後も展開してまいります。
 - ・発達段階に応じ全学年で活発に PC が活用されています。大型スクリーンの活用と合わせ、一人ひとりの授業で意思表示がしやすくなっています。
- 情報モラル教育は、セーフティ教室や家庭向けのリーフレットの活用、小中一貫教育での小中関連した指導、情報モラル教室、情報モラル年間計画に基づいた指導を行うことで、特に ICT 問題は発生しませんでした。

(2) 一人ひとりの子どもに応じた指導を展開し、学力・体力ともに習得目標値を達成できる資質・能力を身に付けさせる

- 個の学力に応じた課題を設定し、既習事項を活用して課題を自力解決し、意見を交流し合い、自分たちで解決した充実感を味わえる授業を目指しました。また、ICTを活用したり学習で学力の個人差に対応したり、個々の特性により学力が定着しない場合も多々あったりしましたので、特別支援的な方法も導入しながら、基礎学力の定着をねらいました。しかし確実な基礎学力の定着には至っていません。今後も多様な指導方法についての挑戦を継続してまいります。
- 計算や漢字など反復練習が必要な学習が不得手の児童が多くいます。学校での個別学習・反復練習の時間の確保、オンライン学習を含めた宿題・個人学習を行い、個々の習熟度に対応した課題に取り組みましたが、基礎学力の向上が十分に図れたとはいえ大きな課題です。
- 学力調査結果を分析し、一人ひとりに対応した宿題を出す等行ってきましたが、基礎学力の定着には至っていません。学習への意欲がある児童が多いので、文章の読み取りの学習を中心に、個別最適な授業を目指し、現在の取り組みを継続することや、個別学習の時間や授業のはじめや終わり、家庭学習の場で、個に応じた課題を提示し、反復練習を継続することで、基礎学力の定着を目指します。
- 体力調査の結果を踏まえて活動した結果特に「持久力」「走る力」の向上に取り組みました。成果は見られますが、まだ課題はあり、次年度も児童の実態に応じて体力向上に取り組んでまいります。
- 基本的な生活習慣の確立については、個別に家庭との連携を深めることで解消されるケースがありますが、引き続き解決を図るべき課題です。
- 挨拶については、小中一貫教育での生活指導上の共通目標でもあります。年間を通して重点項目として指導してきました。今年度挨拶が十分にできていない児童が見られました。次年度は、再度重点的に指導を行うことで、誰にでも挨拶ができる習慣が身につくよう取り組んでまいります。
- 食育については、栄養士が常時教室を回っての指導を行うとともに、メニューの紹介や栄養指導、食事のマナーについて指導を継続的に短時間で行っています。
- 誤食によるアレルギー反応での事故防止のため、年度中2回アレルギー対応研修を行いました。また、常に配膳時から複数体制で給食指導を行っています。また、毎月の除去食について複数の目で見て確認し、保護者の確認同意を確実にを行い、個別の対応を行うというマニュアルに沿った給食提供が実施できており、食事に関する事故ゼロが維持できました。一部除去食の提供も無事に行われています。マニュアルを厳守し、複数の目で確認し、引き続き事故ゼロを目指します。
- 教員の主体的なOJTが行われ、指導法や教材の研究が進んでいます。他の教員の授業を見る機会を引き続き設定し研鑽を積むと同時に、児童全員が学習活動に取り組めるよう、特別支援的な指導も導入しながら指導力の向上を目指します。
- 次年度も「個別最適」「基礎学力の定着」更に特別支援的な指導を取り入れた指導を重点に、研究を深めてまいります。

(3) 自らの目標を設定し、目標に向かって具体的に活動する態度を育む

- 主に、異学年交流活動を通して下級生は上級生を目標に、自らの課題の克服を目指すことができました。上級生も下級生とともに活動する際には、手本となろうと努力する姿が見られ、時には親切に時には厳しく接することができるようになっていきます。

- ・全児童が実現可能な到達目標を学期ごとに具体的に決めて活動しています。また、8割程度の児童が目標達成させることができ、達成に至らなかった児童も目標達成に向けて努力することができました。

(4) 地域・保護者・学校が同じ方向を向いて共に歩む

- ・学校公開開催後のご意見は、学年末に向かうほど肯定的なご意見が多くなり、学校の教育活動について概ねご理解をいただいていると感じています。
- ・学校評価では、「いじめ防止」「学習環境の整備」での肯定的評価が、80%を下回っています。
- ・「いじめ防止」については、子どもたちの小さな変化を見逃さないことが大切であると考えます。教職員も様々な方法を取り入れて子どもたちを見守っていますが、十分でない点も多々あるかと思えます。子どもたちにも「小さなことでも周りの大人だけでなく誰にでも伝えることが大切」と伝えています。保護者の皆様にもご協力いただいておりますが、いじめは起こっています。児童理解は永遠の課題なのかもしれませんが、教職員、保護者、地域、そして子どもたち自身も含め、協力して粘り強く取り組まなければなりません。学校でも教職員が意識をさらに高めて取り組んでまいります。地域保護者の皆様におかれましても、ご協力のほどよろしくお願いいたします。
- ・「学習環境の整備」ですが、特に整理整頓に課題があると思っています。教職員が整理整頓を心掛けるとともに、子どもたちへの指導も必要です。もちろん学校でも指導いたしますが、家庭での指導も必要です。ともに意識してまいりましょう。同時に人的な学習環境の整備も求められるところであると考えています。学習を進める上で、子どもたちに守らせなければならないことを、徹底させられない場面もございます。今、厳しく指導することが「不適切な指導」になることを、教員は危惧し徹底した指導が行いにくい状況にあることも事実です。必要なことを徹底して指導することが必要なことは言うまでもありません。保護者の皆さんと教員が子どもたちに指導すべきことを共有し、協働して指導することが必要であると考えています。保護者会等の場面で、必要な指導について、保護者の皆さんと教員で共通理解を図り、家庭と学校で共通した指導ができるようご協力ください。
- ・主に HP での情報公開を行い、学年学級だよりで各学年とも学校の様子をお伝えしてまいりました。ある程度学校の様子はご理解いただいていると捉えております。反面、HP での情報発信がタイムリーにできなかってこともございました。時をおかず情報を発信するよう留意してまいります。
- ・夏季休業中にフェスティバルを開催していただきました。また冬季に餅つきを開催していただきました。ありがとうございました。児童の参加も多く、来年度以降できる範囲で児童のために楽しい催しを実施していただければありがたく思っております。
- ・青少対行事として清掃活動が行われました。休日にもかかわらず大勢の方にご参加いただき、感謝申し上げます。また、年末の「小さな冬の音楽会」の開催は、本校の児童にとって数少ない他校の活動を目の当たりにする機会にもなっていました。
- ・小規模校の特徴を生かし、平常時の教育活動を行いました。運動会や学芸会などの諸行事は、多くの方にご覧いただくことができ、児童も達成感を感じることができました。

令和6年度(2024年度)の重要課題と対応策の取組報告

① 不登校児童への対応

- ・組織で児童の変化を見取り、児童の状況に芳しくない様子がある場合は、現在行われている「いじめ対策委員会」「特別支援校内委員会」「生活指導全体会」「生活指導夕会」において取り上げ、SC や場合によってはSSW(スクールソーシャルワーカー)の協力を得て面接等で状況把握に努める他、週に二回生活指導夕会を行うようにし、内容も小グループでの情報交換と対応の検討を行い、全体での報告を繰り返してまいりました。不十分な点はあるかと思いますが、より細やかに児童理解ができたと思っています。
- ・児童の状況により担当委員会を中心に対応策を検討し、保護者と連携しながら改善策を実行できました。市教委の支援相談担当と連絡を取ったり、医療との連携行ったりしてまいりました。
- ・家庭での問題が関わる場合においては、主に「子ども家庭支援センター」と、時には「児童相談所」「警察」とも連携して課題解決を模索してまいりました。
- ・教室で級友と過ごせない児童に対し、別室登校・学習を行ってきました。

② 特別支援対象児童を含めた「落ち着かない児童」への対応

- ・特別支援級の教員やSC、都から派遣されている巡回心理士に児童の観察や見取りを行ってもらい、主として「特別支援校内委員会」で方針を決め、指導を進めることができました。
- ・特別支援サポーター・学習サポーター・特別支援ボランティア・学習ボランティア・学習支援員等の人的支援を活用し、不十分な点もあったかとは思いますが、できる限り個別対応を行ってまいりました。

③ 学力の向上(基礎学力の定着)

- ・令和6年度は個人差が大きいこと・文意が読み取れない状況に、学校全体として対応してきました。授業や家庭学習を含め、一人一台端末を活用して、個別に取り組む問題を示し取り組みました。更に、休業中には個々のつまずきに対応した課題を一人ひとりに取り組みました。特別支援的な対応も加味した取り組みも行ってきましたが、まだ成果が十分に表れていません。来年度もこうした取り組みを継続します。併せて既習事項を生かした自力解決の促進、友だちとの多様な意見交換の場を設けてのコミュニケーション能力の向上、友だちとともに課題解決できる達成感を味わわせることも継続したねらいとして授業を実践していきます。全児童ができる・わかる・楽しいと実感できる授業を目指します。

④ 小中一貫教育の充実

- ・令和6年度甲ノ原中学校グループでは、教員による小中一貫教育について、国語・算数数学・生活指導・特別支援教育の部会に分かれて、3校共通の取り組みの実施について協議し、共同の取組を行うことができました。児童・生徒合同の活動の実施は、同日連携型引き取り訓練、合同防災訓練、夏季休業中の中学生による学習ボランティア、青少対主催の「小さな冬の音楽会」への共同参加でした。「基礎学力の定着」「特別支援」は各校同様の大きな課題です。活動が見えにくい点があるかと思いますが、令和6年度も3校共通の課題の学力向上や安全教育を中心に、小中一貫教育を推進してまいります。

⑤ 体力向上の取り組み

- ・「持久力」や「走る力」がやや低いことの向上を意識し、体育の授業を構成したり、遊びを勧めたり、体力向上週間を設けることで、本校の現状に応じた体力向上を目指してきました。児童も教員も意欲的に取り組み、運動を楽しむ児童が多くなってきており、体力の向上にもつながったと捉えています。今後も本取組は継続してまいります。